

平成 27年度継続課題に係る継続評価書 (平成25年度以降採択課題向け)

研究機関 : 富士通(株)、エヌ・アール・アイ・セキュアテクノロジーズ(株)、
名古屋大学

研究開発課題 : サイバー攻撃の解析・検知に関する研究開発

研究開発期間 : 平成 25 ～ 27 年度

代表研究責任者 : 塩崎 哲夫

■ 総合評価 : 適

(評価点 19 点 / 25 点中)

(総論)

研究開発課題全体が順調に進捗しており、来年度も引き続き研究開発を精力的に実施することが望ましい。

研究開発成果の社会展開に向けた取組が十分に行われており、製品化等の具体的な実績が得られている。

(コメント)

- 本研究開発課題の特色である「行動特性分析に基づく不正検知技術」について、来年度以降も積極的に研究開発を推進することが望ましい。
- 外部有識者及びビジネスプロデューサとの密接な連携が認められ、研究開発成果の社会展開を強力に後押しする体制が提案されている。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組の実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4 (評価点)

(総論)

研究開発目標を概ね達成しており、研究開発課題全体が予定より早く進捗している。
アウトカム目標達成に向けた取組の実施状況も妥当である。

(コメント)

- 研究開発目標に関して、既に達成しているか、もしくは今年度中に達成見込みという状況であり、研究開発が順調に進捗している。
- 計画を前倒して成果の一部を既に製品化しており、研究開発成果の社会展開に関して目標以上の実績を上げている。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価4 (評価点)

(総論)

効率的に研究資金が使用されており、適切な使用状況である。

(コメント)

- クラウド環境を利用するなど、必要経費を削減するための努力が認められる。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4 (評価点)

(総論)

当初の予定を前倒ししての研究開発実施を計画しており、評価できる。

適切なリソース配分の下、早期の成果展開を目指す研究開発実施計画となっており、評価できる。

(コメント)

- 本研究開発課題の特色である「行動特性分析に基づく不正検知」等の重要な研究開発テーマについて重点的に研究開発の実施を予定するなど、研究テーマの選択と集中が適切に行われており、限られたリソースを効率的に活用できる計画となっている。
- 研究開発成果の製品化を含め、アウトカム目標の達成に向けた具体的な計画が示されている。
- 社会情勢や技術動向の変化が早い分野であるので、来年度もこれらの変化に対応して研究開発を実施することが望ましい。
- 各研究テーマについて、査読付き論文等の学術的な成果に結び付けるための取組を、より一層推進するべき。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3 (評価点)

(総論)

研究開発計画に照らして適切な予算計画である。

(コメント)

- 研究開発計画に照らして、適切な予算計画が組まれており、効率的な研究資金の利用が期待できる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価 4 (評価点)

(総論)

研究開発計画に照らして適正な人員配置となっている。

外部有識者、ビジネスプロデューサとの十分な連携体制が構築されている。

(コメント)

- 外部有識者から構成されるアドバイザリーボードや、アウトカム目標の達成に向けた取組を推進するビジネスプロデューサからの知見を研究開発に生かすための十分な連携体制が構築されている。
- 各研究テーマ間において、「利用者の行動特性」という視点を軸に、最終目標である「総合的セキュリティ基盤の実現」に向けてさらなる連携の推進が期待される。